法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-15

【図書紹介】『アーレント読本』日本アーレント研究会編著、法政大学出版局、二〇二〇年

OSHIYAMA, Shiori / 押山, 詩緒里

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政哲学 / HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY
(巻 / Volume)
19
(開始ページ / Start Page)
88
(終了ページ / End Page)
88
(発行年 / Year)
2023-12-29

【図書紹介】

『アーレント読本』

日本アーレント研究会編著、法政大学出版局、二〇二〇年

押山　詩緒里

ハンナ・アーレントは二十世紀を代表する政治哲学者の一人である。日本においては、一九六〇年代後半から主に社会学や政治学の分野で受容が進んできた。とりわけ二〇〇〇年以降の日本のアーレント研究の発展は目覚ましいものがあり、その背景には現代の混沌とした政治状況の影響があったと思われる。すなわち、排他的なナショナリズムの世界規模の拡大に対して、彼女の政治哲学の諸概念が批判的機能を発揮することが期待されたのである。今日の世界で「異質な他者の排除」はますます進行しており、アーレント研究の現代的意義はさらに増しているといえる。

本書もまた、アーレントへの現代的関心の高まりをうけて発刊されている。編者の三浦隆宏によれば、本書は「アーレント思想の全体像についての案内書、あるいはコーパス」（序文四頁）となることを企図している。その目標の通り、本書はアーレント思想の基本概念や主要な問題群を整理し、彼女の広範な思想の見通しを良くする「地図」としての役割を果たしている。その上で本書は、従来の日本のアーレント研究の枠組みを超えるために、社会学や政治学の研究者に加えて哲学や倫理学の専門家を執筆者に迎え、より多様な視点からのアーレント研究を試みている。さらに、若手から中堅の研究者を多く取り入れることで、これまで見落とされてきたアーレントの新たな側面を描き出している。

本書は、以下の四つの部によって構成されている。

第一部「アーレントにおける基本概念」では、彼女の政治哲学の中心的な主題について概説的に論じられている。第二部「現代世界におけるアーレント」では、責任論、芸術論、自由論、法権利、教育学など、様々な観点からアーレントの特徴・意義・限界を考察している。第三部「各国における受容」では、日本、英語圏、ドイツ、フランスにおけるアーレントの受容史がまとめられている。特にアーレントがフランスの社会学、政治学、哲学に対してもたらした影響は、これまでの入門書ではまったく言及されていなかった点であり、本書の独自性の一つである。第四部「著作解題」では、アーレント著作の年代別の見取り図と解説が示されている。特筆すべきは、主要な著作だけでなく、日本では未翻訳の書簡集や手稿についてもまとめられている点である。本書は、今後の日本のアーレント研究にとって貴重なデータベースになるであろう。